

放射線リスクコミュニケーション 相談員支援センターだより



放射線教育用資料のご紹介と 低学年用紙芝居貸出しのご案内



放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター（以下、放射線リスクコミセンター）では、児童・生徒・学生を対象に、放射線に関する科学的な知識の定着、福島第一原子力発電所事故後の取組や復興の状況について理解を深め、児童・生徒が自ら考え、判断・行動し、自分の考えを主張する力を育成するための放射線教育支援を行っています。

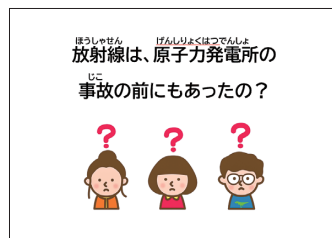
東日本大震災と福島第一原子力発電所事故から年月が経ち、現在の子どもたちの多くは震災当時の記憶を持たない世代となりました。そのため、放射線に対する正しい知識を伝え、根拠のない不安や風評、差別を防ぐ教育の重要性が高まっています。一方で、学校現場では教員の多忙化や教員数の減少、経験の差等から、「どのように授業を進めれば良いか分からない」、「専門知識やノウハウが必要ではないか」と不安を感じる声も少なくありません。

そこで放射線リスクコミセンターでは、教員が無理なく、継続的に放射線教育を実施できるよう、多角的な支援を行っています。その中でも今回は、「放射線教育用パッケージ資料」と「紙芝居の貸出し」についてご紹介します。

【放射線教育用パッケージ資料】

放射線教育用パッケージ資料は、基礎を学ぶ「コア資料」と、発展的に学ぶ「オプション資料」の2つで構成されています。コア資料では、放射線に関する基礎的な知識をまとめており、福島第一原子力発電所の事故に関する概要や、放射線の性質、身の回りにおける放射線、放射線による影響が「量」によって決まること等、放射線に関する基礎知識を、児童・生徒の発達段階に応じて分かりやすく整理しています。一方、オプション資料では、日本各地の放射線量やALPS処理水の説明資料等、各学校のニーズに応じた発展的内容を含めて放射線教育を行うことができます。さらに、GMサーベイメータや環境放射線モニタ「Radi」等を用いて行う測定実習と組み合わせることで、より

実践的な放射線教育の実施も可能です。

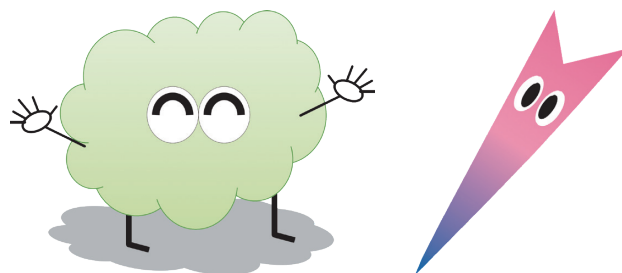


パッケージ資料と測定実習の様子

【紙芝居貸出しのご案内】

放射線リスクコミセンターでは、小学校低学年・中学年向けの紙芝居の貸出しも行っています。この紙芝居は、専門的な説明や、難しい言葉を使わずに物語を通して放射線や福島県の経験を学べるよう工夫されています。

紙芝居に登場する主人公は「もやもや君」という、見た目はもやもやしているけど、頭の中がもやもやしているのは嫌いな知りたがり屋さんの子どものようなキャラクターです。そんなもやもや君に優しく放射線のことを教えてくれるのが、姿が見えない「天の声さん」です。両者の掛け合いで物語は進みます。このほか、目には見えない放射線を「ほうしゃ君」というキャラクターで表現しています。



「もやもや君」と「ほうしゃ君」

この紙芝居は、放射線の科学的性質、福島での震災・原発事故の経験、復興への歩みという3つのテーマで構成されています。震災や原発事故による避難、除染作業、地域復興の取組等、福島で起きたできごとを伝える内容となっています。さらに、担任の先生が自身の体験や思いを交えて読み聞かせることで、児童が福島の問題をより身近に感じ、理解を深められるよう工夫されています。



教員による紙芝居読み聞かせの様子

紙芝居を活用する大きなメリットは、児童にとって最も身近で信頼できる担任教員が読み聞かせを行うこ

とで、理解度や納得感が高まりやすい点です。特別な準備を必要とせず、授業経験の差に左右されにくいいため、どなたでも実施しやすい教材となっています。授業中には児童の表情や反応を見ながら進められるため、理解度を確認しつつ柔軟に授業を進めることができます。

さらに、児童からよく寄せられる「放射線はどこにあるの?」、「建物の中にもあるの?」、「放射線の大きさは?」といった素朴な疑問に教員が自信を持って答えられるよう、Q&A集も用意しています。放射線リスクコミセンターでは、「完璧な授業」を目指すのではなく、「学校で続けられる授業」を大切にしており、教員が一人で抱え込まずに取り組める環境づくりを進めています。放射線教育の支援や紙芝居の貸出しについて、ご興味のある方は、放射線リスクコミセンターまでお気軽にお問い合わせください。

放射線リスクコミセンター 令和8年度チラシのご案内

放射線リスクコミセンターのご案内

放射線リスクコミセンターの令和8年度チラシが完成しました。当センター全体のご案内に加え、車座意見交換会・福島県来訪予定者向けのご案内の更新を行い、新たに移住検討者・移住者が放射線について気軽に相談できるように、移住検討者・移住者向けのご案内を作成しました。チラシを通して伝えたいことを直感的に受け取れるような構成となっております。

車座意見交換会のご案内

福島県への
来訪予定者向けのご案内

福島県への移住検討者・
移住者向けのご案内

福島県内の12市町村を中心とした役所・役場や社会福祉協議会、移住定住支援センター等にて設置・配布しています。ぜひお手に取ってご覧ください。また、ホームページからもご覧いただけます。

様々な支援内容の中から皆様の実情やお悩みに合わせて企画・ご提案いたします。放射線に関するご相談、不安等がありましたら、当センターにお気軽にご連絡ください。



【スマートフォン等からの見やすさも重視しました】

ホームページリニューアルのお知らせ

放射線リスクミセーターでは、活動内容のご紹介と、支援を必要とする方へ必要な情報をお届けすることを目的に、ホームページを開設しています。

より見やすく、情報を探しやすいページを目指して、このたびホームページをリニューアルしました。

URL : <https://www.env.go.jp/chemi/rhm/shiencenter/>

こちらからもご覧いただけます→



スマートフォンで見た画面



放射線リスクミセーターホームページのトップページ

ホームページを初めてご覧になる方でも「知りたいこと」や「必要な情報」にたどり着きやすい構成にしました。パソコンはもちろん、スマートフォン等のモバイル機器でも快適にご覧いただけます。

【必要な情報が見つかりやすくなりました】

支援の対象や内容を整理し、初めての方でも目的に合わせて情報を探しやすい構成にしました。

テーマごとに情報を整理し、支援内容・対象者・最新のお知らせが直感的に分かるよう、画面内の配置も整えました。

トップページでは最新情報をスライドで表示しており、注目コンテンツを一目で確認できます。気になる項目から目的のページへ進みやすいよう工夫しました。スライド部分には放射線リスクミセーターについて、活動内容、放射線教育の支援、移住者日記の内容を紹介しており、流れに沿ってご覧いただくことで放射線リスクミセーター及びその活動についてより深くご理解いただける構成になっています。

※スライドは自動で再生されます。画像左右の「<」「>」ボタンをクリックして切り替えることもできます（モバイルの場合は左右にスワイプ）。画像またはタイトルをクリック（タップ）すると、詳細ページに移動します。

スマートフォン等から見た画面構成や情報の配置を見直し、外出先からのアクセスでも、時間や場所を問わずにご利用いただけるようになりました。リンクやボタンは押しやすい大きさ・配置とし、「ちょっと確認したい」、「その場で説明したい」といったシーンでも快適にお使いいただけます。今後もホームページを通じて、放射線に関する情報や支援活動の内容を、分かりやすくお伝えしていきます。

施設紹介 JAEA ANALYSIS LAB. (大熊町)

福島県大熊町のCREVA おおくま内にある「JAEA ANALYSIS LAB.（以下、アナリシスラボ）」は、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以下、JAEA）福島廃炉安全工学研究所が運営する「分析」をテーマにした体験型の情報発信施設です。



施設入口の様子

分析の魅力を体験しながら楽しめるコーナーや、一般には立ち入ることのできない大熊分析・研究セン

ターを大型ビジョンで見学できるバーチャルツアー動画等を体験できます。また、分析現場で使用している装置や JAEA による研究開発の取組も紹介されており、福島第一原子力発電所の廃炉を支える分析技術や研究について、子どもから大人まで楽しく学べる施設として、多くの来館者の関心を集めています。

「分析」と聞くと、専門的で難しそうなイメージを持つ人も少なくありません。しかし、アナリ斯拉ボでは、体験を通して分かりやすく学べる展示が充実しており、遊び感覚で参加できる仕掛けが多く、科学に詳しくない人でも気軽に楽しめるのが特徴です。

施設内には、分析の力を「見て・体験できる」5つのエリアがあります。「ブンセキ・クエスト」は、謎解き形式の体験コーナーで、「おまんじゅうが消えた!」、「花びんが突然割れた!」、「誰も触っていない赤べこが動く?」の3つの謎について、証拠を集めながら犯人を探っていきます。分析技術を使いながら問題を解決していく内容となっており、科学的な思考や観察の面白さを体験することができます。特に10代から20代の来館者に人気が高く、ゲーム感覚で楽しみながら学べる展示となっています。



「ブンセキ・クエスト」体験の様子

また、「アナリシス・シアター」では、“見えないものを見てみよう”をテーマに、映像を通じて分析技術の役割を学ぶことができます。普段はなかなか見ることができない大熊分析・研究センター内の様子や、分析・観察することが私たちの暮らしをどのように支えているのかが紹介されており、研究の世界を身近に感じられる内容となっています。

放射線について学べる「ハウシャセン・スコープ」も注目の展示です。ここでは「霧箱（きりばこ）」という装置を使い、普段は目に見えない放射線の飛跡を観察することができます。放射線の飛跡の種類も解説されており、私たちの生活の中にも放射線が存在していることを、視覚的に分かりやすく学べるよう工夫されています。この展示は幅広い年代に人気があり、アナリ斯拉ボを代表する体験の一つとなっています。

さらに、「スケルトン・ラボ」では、実際の JAEA

大熊分析・研究センターで使用されているものと同様の分析装置を間近で見ることができます。本格的な研究機器に触れることで、最先端の科学技術をよりリアルに感じることができるでしょう。

このほかにも、JAEA で働く研究者や技術者の仕事、どのような場所で働いているかを紹介する「アトミック・フロンティア」という展示もあり、JAEA と廃炉の未来について理解を深めることができます。



緊急時対応車両も展示されています

また、アナリ斯拉ボでは定期的にイベントも開催されており、水の分析員お仕事体験や工作イベント等、子ども向けの体験型プログラムが実施されています。イベント内容は毎回さまざまですが、どの企画も「分析」や「科学」に興味を持ってもらえるよう工夫されており、地域のにぎわいづくりにもつながっています。

アナリ斯拉ボは、福島の未来を支える「分析」の大切さを、楽しみながら学べる施設です。専門的な内容を分かりやすく伝える工夫が随所に施されており、子どもから大人まで幅広い世代が科学や廃炉への理解を深めることができます。ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

施設情報 **JAEA ANALYSiS LAB.**

〒979-1308

福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116番5

CREVAおおくま（大熊町産業交流施設）1階

● 開館時間：10:00 ~ 16:00

● 休館日：火曜日 ● 入場料：無料

放射線リスクコミュニケーション

相談員支援センターだより No.50

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

連絡先：〒970-8026 いわき市平字小太郎町1-6

いわきセンタービル5階

フリーダイヤル：0120-478-100

FAX：0246-35-5158

E-mail：F-sodan@nsra.or.jp

